

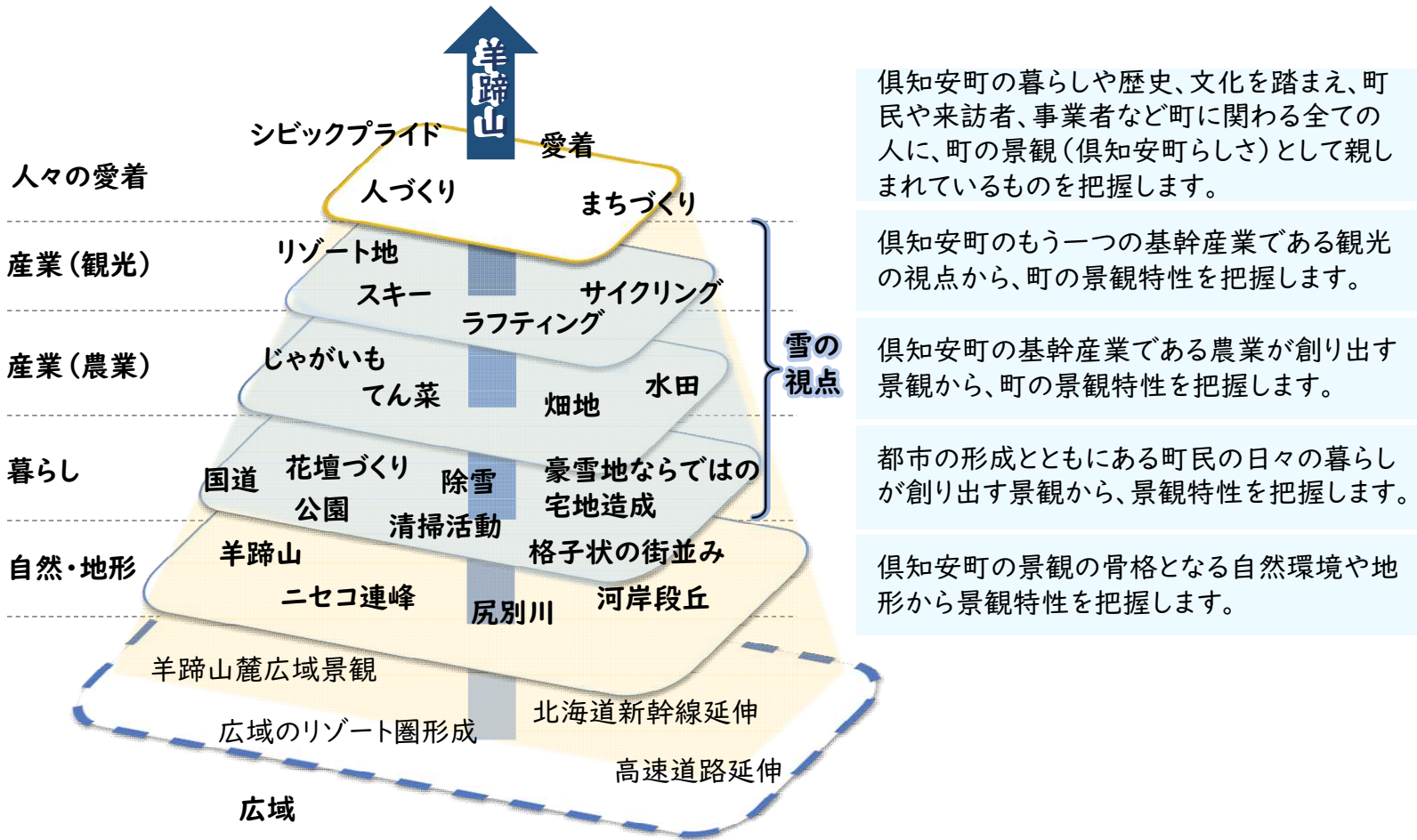
■ 倶知安町全体の景観特性の捉え方

- ・ 倶知安町の景観を創り出している大切な要素として、羊蹄山麓の広域景観や広域のリゾート圏形成などの「広域」の要素が背景にあり、土台として羊蹄山や河岸段丘などの「自然・地形」、その上に道路や市街地、町民の営みなどの「暮らし」、畑地や水田などの「産業（農業）」、スキーやリゾート地などの「産業（観光）」が重なり合っています。
- ・ さらに、その重なり合いとともに、町民を始めとする倶知安町に関わる全ての「人々の愛着」が自然・地形、都市形成、産業までを守り、育て、創っており、倶知安町の景観を形成していると言えます。
- ・ また、倶知安町の「暮らし」「産業（農業）」「産業（観光）」の景観において、雪は重要な要素であり、豪雪地帯の倶知安町らしい特徴的な景観をつくりだしています。

【時間軸で捉える景観】

和暦（西暦）	できごと	景観の変遷
明治25（1892）年	開基	
明治29（1896）年	基線3号線に村の中心市街地が成立	
明治37（1904）年	JR倶知安駅 開業／格子状の市街地が形成	
明治40（1907）年	基線6号線、基線9号線沿いに中心市街地が移り変わり	
明治45（1912）年	レルヒ中佐一行が旭ヶ丘公園予定地でスキーの練習を公開	
大正5（1916）年	町制施行 倶知安村を倶知安町と改称	
昭和24（1949）年	都市計画法により都市計画区域に指定	
昭和24（1949）年	支笏洞爺国立公園 指定	
昭和36（1961）年	ニセコ高原比羅夫スキー場オープン	
昭和38（1963）年	ニセコ積丹小樽海岸国定公園 指定	
平成18（2006）年	「羊蹄山麓広域景観づくり推進地域」に指定	
平成20（2008）年	準都市計画区域の指定／景観地区の決定	

【倶知安町の景観特性を把握する要素階層】



倶知安町の暮らしや歴史、文化を踏まえ、町民や来訪者、事業者など町に関わる全ての人に、町の景観（倶知安町らしさ）として親しまれているものを把握します。

倶知安町のもう一つの基幹産業である観光の視点から、町の景観特性を把握します。

倶知安町の基幹産業である農業が創り出す景観から、町の景観特性を把握します。

都市の形成とともにある町民の日々の暮らしが創り出す景観から、景観特性を把握します。

倶知安町の景観の骨格となる自然環境や地形から景観特性を把握します。

【倶知安町の景観に関するアンケート調査 倶知安町の現状について 結果抜粋】

○ 自宅や道路から自然の景色を望めるか

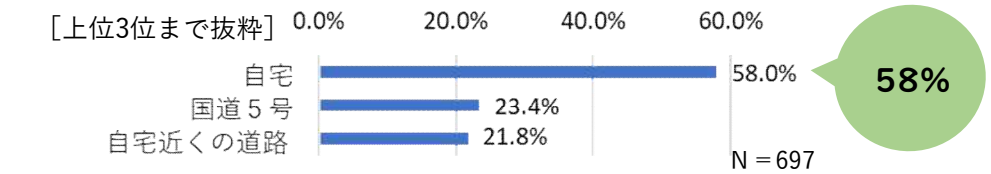
- ・ 羊蹄山やニセコ連峰などの山なみや、身近な河川などの自然の風景を望むことができると回答した人が多く、倶知安町民の大半が、自然の景色を身近に望める環境にあることがわかる。

○ 居住地周辺の住宅地または商店街のまちなみに魅力を感じるか

- ・ 居住地周辺に住宅地または商店街があると回答した人の中で、そのまちなみに魅力を感じると回答した人と魅力を感じないと回答した人は、ほぼ同数だった。

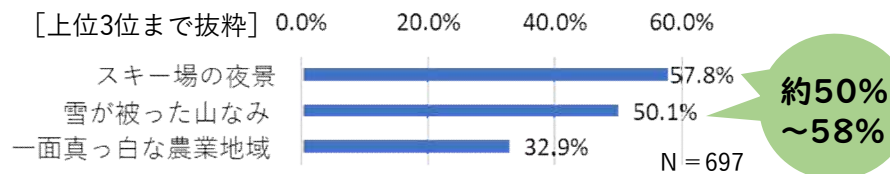
○ どこから山なみを眺めるのが好きか（複数回答有）

- ・ 自宅や国道5号線、自宅近くの度道路と回答した人が多く、身近な場所から山なみを眺めるのが好きな人が多かった。



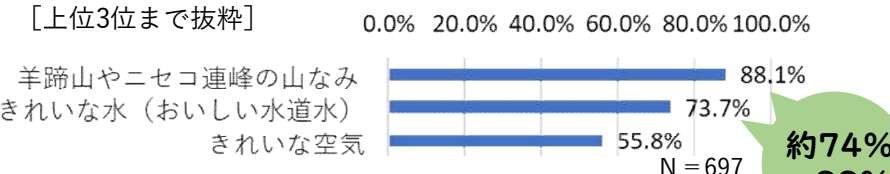
○ 倶知安町で良いと思う冬の景色（複数回答有）

- ・ スキー場の夜景や雪が被った山なみ、一面真っ白な農業地域と回答した人が多く、スキーリゾートおよび自然の多い豪雪地帯ならではの景色に良さを感じている人が多かった。



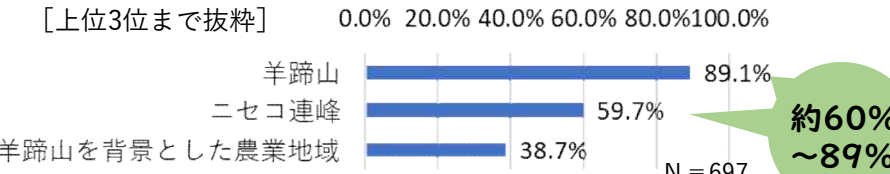
○ 倶知安町の魅力だと思うもの（複数回答有）

- ・ 山なみやきれいな水、きれいな空気と回答した人が多く、「自然」が倶知安町の魅力だと感じている人が多かった。



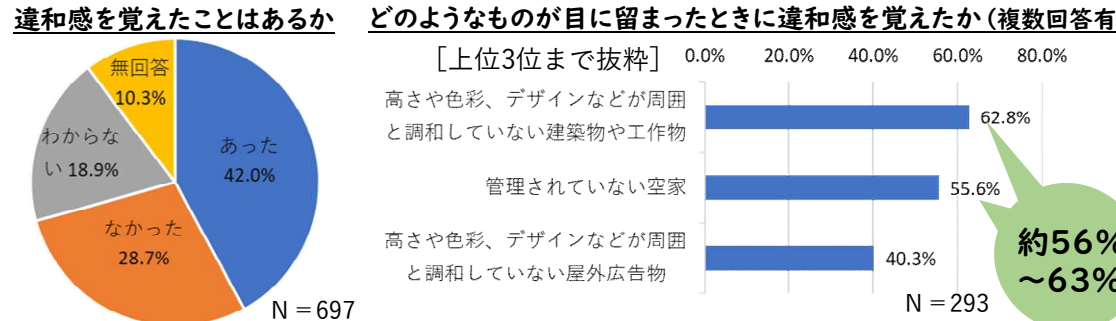
○ 倶知安町の誇れる場所（複数回答有）

- ・ 羊蹄山やニセコ連峰といった山々、羊蹄山を背景とした農業地域が誇れる場所だと回答した人が多かった。



○ 倶知安町の自然の景色やまちなみに違和感を覚えたことがあるか

- ・ 「違和感を覚えたことがあった」と回答した人のうち、周囲と調和していない建築物や工作物、屋外広告物、管理されていない空き家に違和感を覚えたことがあると回答した人が多かった。



○ 倶知安町の自然の景色やまちなみについての意見（自由記述）[一部意見要約抜粋]

- ・ 羊蹄山やニセコ連峰、尻別川などの景色や眺望を大切にし、自然を守り続けてほしい。
- ・ 恵まれた自然環境を守るための計画や規制をしてほしい。
- ・ 自然は美しいが、建物などまちの景観に統一感やセンスが感じられず美しくない。
- ・ 建造物や看板に統一感を持たせ、まち全体を整えてほしい。
- ・ 羊蹄山への眺めを阻害しているので、無電線・無電柱化してほしい。
- ・ コンドミニウムなどの建物が増え、景色が自然と調和していない。
- ・ 高さのある建物が、山への眺望を遮っている。
- ・ 森林を切り開いて自然を壊し、新たに建物を建設することは賛成できない。
- ・ 空家やがれきになったまま撤去されない店舗などが気になる。
- ・ 桜並木をつくって、桜と羊蹄山が見れるお花見スポットがあればよい。
- ・ 倶知安町により多くの木を植えて緑化してほしい。 街路樹は良い。
- ・ 国道沿いや商店街などの花壇は、人々の目を楽しませてくれている。
- ・ 倶知安町のまちなみは、少し淋しい感じがする。駅前に活気がない。・・・など

■ 各会議で出された景観特性に繋がる「キーワード」(抜粋)

【第1回検討会議 令和2年7月15日】

- ・ 倶知安駅から見る街並みは好ましくないが、羊蹄山の魅力がある
- ・ 冬のスキー場などの景観は素晴らしいが、夏場の市街地とのギャップがある
- ・ 目の前に羊蹄山・ニセコ連峰があることは倶知安町最大の魅力
- ・ 「暮らしの姿」が景観。「景観」は住む人の身だしなみであるという考え方もある。
- ・ 「どういう暮らしを目指すのか」という視点で議論を進めると、個々人の「良好な景観」への共通認識に繋がる
- ・ 積雪を考慮した建築など「暮らしやすさ」が「美しさ」につながることもある
- ・ 「羊蹄山」「豊かな森林」「農地」の3つによって景観が構成されているなど、景観構造の明確化により、保全の方向性が分かりやすくなる など



【第2回検討会議 令和2年8月5日】

- ・ 河岸段丘と格子状の農業景観の組み合わせは町の特徴の一つと言える
- ・ 河岸段丘の斜面緑地と農地の繰り返しが特徴的
- ・ 生産緑地が点在する風景が実に秩序だっており、自然に寄って生まれた色彩や模様が大切な景観を形成
- ・ 旭ヶ丘公園から見ると町の地形が良く分かる
- ・ 人がいないと街並みも景観も成立しない。まず地域をどう活性化するか考える必要がある
- ・ 植物の繁茂によって川面が全く見えない場所があり、川面を景観に取り込みたい
- ・ 景観に対して意見を云うだけでなく、花壇の草取りをするなど活動し、景観に関わることで、愛着も湧く など



【第1回市街地景観検討部会 令和2年9月10日】

- ・ 老朽化した建物が多いが、これらをどのように見栄え良く見せるかが課題
- ・ 通りごとに個性がある。それらの持ち味を引き出す工夫があると街歩きも楽しい
- ・ 駅前通りは電柱のせいで道路の広がり狭いと感じる
- ・ 旭ヶ丘公園から市街地が見える風景が大切。羊蹄への眺望も美しい
- ・ 草が繁茂しているが河川も重要な資源
- ・ 軟石の石造倉庫は歴史的で味わいのある建物であるため、活用できないか
- ・ 繊維の鉢を使った花植えや緑化は町の特色の一つ
- ・ 小路に個性的で賑わい感が外に見える店ができている(3軒効果に繋がる) など



【第1回景観地区検討部会 令和2年9月11日】

- ・ 倶知安のようなレベルのスキーリゾートは、日本に他にない
- ・ スキーリフトに近いエリアや高速道路の新設を見据えた地区の新たな開発が懸念
- ・ 交通渋滞も大きな課題で、景観は暮らしという広い視野で考える必要がある
- ・ 河川は人工的な整備が多く、自然に調和するような意匠になっていない
- ・ 開発側が目立つということを目的に建築を立てた際に、結果として街並みに統一感が無くなっている。
- ・ 水源や温泉は限りあるものなので、今後重要課題として考えていくべき
- ・ 歩道にはみ出した繁茂した植栽は、しっかりと管理すべき など



【第2回景観地区検討部会 令和2年9月25日】

- ・ ひらふや泉郷、羊蹄の里は当時開発した事業者が門や垣根をつくらないという自主規制を作り、今も続いている
- ・ 尻別川と羊蹄山までの白地地域は何かしらの規制を設けるべきだ
- ・ 特に道路に面した長く開発していないオーナーのいる土地は、雑草の繁茂などの課題がある
- ・ 開発により森林が切り倒されている現実を見ると緑地率の確保などが必要と感じる
- ・ 色や高さについては、何かしらの規制が必要
- ・ 川の魅力が見えないことが残念。ひらふには渓谷のような景観がある など



【第3回検討会議 令和2年10月19日】

- ・ クリーンなまちは観光客にも感動を与えており、街灯もLED化し、明るく安全なまちができている
- ・ 外からどう思われるかではなく、地元に住んでいる方が楽しく安全に暮らせることが大切であり、観光はそれらを見に来る人たちなのである
- ・ 現在の景観を将来の子供たちに残していくためにどうしたらいいのかを話し合う必要がある
- ・ まちの景観について町民の意見を聞く場が必要であり、意識醸成、啓発をさらに行うべき
- ・ 短期的に住む住民に対する「景観を大切にすまち」のアプローチも必要である
- ・ 劇的に変化しないように保全していく地区とリゾート化していくべき地区と棲み分けを考える必要がある など



【第2回市街地景観検討部会 令和2年10月20日】

- ・ 一律でルールをかけることは難しいので、ゾーニングと役割分担が必要。駅前通りの軸においてはある程度の高さを抑えるべきである
- ・ 高さ制限を決めるのではなく、現在の幅員を生かしてセットバックするなど、眺望やヒューマンスケールに配慮してもらうルールとすることが必要
- ・ 羊蹄山を望む眺望点を設定し、そこからの眺望を保全するという考え方が適している
- ・ フォトスポットとなるような場所を設定することも効果的である
- ・ 石蔵倉庫の並びの街並みが大切である。「石蔵を越えた高さのものは建てない」のようなルールも考えられる
- ・ 賑わいや潤いのためにも緑化は必要であり、駅前広場のイメージが駅前通まで続く連続性をみどりで演出できるとよい

【第3回景観地区検討部会 令和2年11月10日】

- ・ 駐車スペースの確保をルール付けているが、実際は冬期の雪置き場となって使えない場合も多い
- ・ 駐車場や緑地や雪置き場が足りていないという課題があるため、建蔽率の見直しが必要であり、さらにみどりを残していくためのルールも設ける必要がある
- ・ 最低敷地面積のルールを見直し、面積のある建物には一定の緑地を確保するルールがあってもよい
- ・ 賑わいづくりにつながるようなビジョンを景観条例の中でも触れられるとよい。1階に店舗を入れるルールや人の拠点となるような広場を設置するような方法がある
- ・ 今後さらに観光客が増えることを想定すると、エリア全体のキャパシティのコントロールが必要



■ 倶知安町の景観をつくる要素や資源

(1) 自然・地形がつくる景観要素や資源

羊蹄山やニセコ連峰をはじめとする雄大な山々と清流尻別川などの良好な水辺環境があります

- ・支笏洞爺国立公園に属する羊蹄山は、公園の大部分が道有林であり、森林資源が保全
- ・ニセコ積丹小樽海岸国定公園に属するニセコ連峰はスキー場をはじめ、自然を生かしたアクティビティの拠点
- ・市街地は、尻別川、倶登山川、河岸段丘によって囲まれた沖積地上に形成
- ・尻別川、倶登山川、ポイントサン川など、河畔林が作り出す、水と緑の織り成す良好な水辺環境
- ・総面積の約65%を占める森林は、広葉樹（イタヤカエデ、ナラ、ダケカンバ等）が多く分布し、夏の緑、秋の紅葉、冬の枯木など、四季によって山並みの風景が変化



【倶知安町ならではの特徴的な景観をつくる雪】
日本海と羊蹄山、ニセコ山系などの地形により、倶知安町は屈指の豪雪地帯である。雪は農業や観光業の「産業」、私たちの「暮らし」に大きく関わり、倶知安町ならではの特徴的な景観をつくり出している。

- ・町全体が一面真っ白の世界になる、しんと雪が降り続いた翌朝の光景

(2) 産業がつくる景観要素や資源

【農業】羊蹄山を背景とした四季の移ろいを感じられる雄大な風景は、住んでいる人・この町で育った人のそれぞれの「原風景」「ふるさと」を象る要素となります。

- ・特産品の馬鈴薯をはじめとした畑作中心の作物
- ・初夏、丁寧に育てた農作物が一面に青々と生育
- ・馬鈴薯の、品種によって異なるピンク・黄色の花の絨毯
- ・早朝から夜間までハーベスターなどで農作物を収穫する作業の様子
- ・自然の恵みを感じられる農地脇に積まれた収穫コンテナ
- ・地域の酪農業を支える広大な牧草地(242.3ha)が広がる町営花園育成牧場



(出典：倶知安町HP)



【農地が持つ景観(観光の視点)】
一体的に広がりを持つ農地は、来訪者(観光客)に対し、倶知安という町を印象づける大きな要素。

- ・広がりを持つ農地は肥沃な大地を連想させ、自然の豊かさ(空気・水・土・気候)を印象づける
- ・身近な自然と食に囲まれた暮らしの豊かさを印象づける
- ・遮るものがない開けた農地は、遠くの羊蹄山やニセコ連峰などの山並みを望むことができ、倶知安にきた実感と期待感を想起させる。

【雪がつくる景観要素や資源】
●農業と雪

- ・冬は農地に一面真っ白な美しい雪原が広がる。
- ・春は営農を早めるために積雪深い農地に黒い融雪剤がいたるところに散布



【観光業】世界から注目される自然体験が重要な観光資源となっています

- ・国際的なリゾート地として魅力的で多様な施設が一体的に形成、冬季間は特に賑わいを見せるニセコひらふ地区
- ・夏は尻別川のラフティングやスキーコースを活用したフロートレイル等、自然環境を生かした多様なアクティビティが展開
- ・自然を感じる広い道路、山あいの険しい峠、リゾート地、市街地など、変化に富む道路環境がサイクリストを魅了
- ・冷涼な夏季の気候と身近な自然環境による避暑地としての長期滞在環境
- ・アクティビティだけでなく、豊かな食と安全な滞在環境が整ったリゾート地



(出典：倶知安町HP)



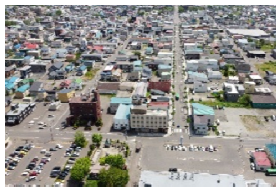
●観光業と雪

- ・ニセコアンヌプリには、町内に2つのスキー場を形成
- ・良質なパウダースノーに魅了した、多くの国内外観光客のウィンタースポーツに興じる姿
- ・宝石のようにキラキラと輝くスキー場のナイター照明

(3) 暮らしがつくる景観要素や資源

JRや国道5号を中心としてまちの骨格が形成、清掃活動など町民のまちづくりの取組が日常的に行われています。

- ・直線の道路、碁盤の目(格子状)に形成された街区はすっきりとした街並みを形成
- ・街区を形成する町道の多くは10.90m(6間幅)と堆雪幅を考慮した広めの生活道路空間を形成
- ・町内会や事業者による清掃活動など、自主的な環境維持の取組による住みよい環境の維持
- ・街灯のLED化による夜でも明るく、安全な道路
- ・豊かな暮らしにつながる、街区公園や旭ヶ丘総合公園などの多様な公園が点在
- ・自然素材の活用を促す「くっちゃん型住宅ガイドライン」に示す倶知安らしい住まいづくり
- ・町内会が積極的に取組む花植えや花壇づくりによって創出される日常の暮らしの潤い



●暮らしと雪

- ・早朝に町道をくまなく機械除雪することによる、車道・歩道空間が確保された安全な移動環境
- ・歩道除雪でできた背丈を超える雪かべの中を歩く子どもたちの光景
- ・積雪で狭くなった道路で譲りあう光景
- ・地域の堆雪場として利用される市街地内の空き地
- ・「建築物に関する指導要綱」により、隣地との間隔をとり落雪飛距離を確保した、豪雪地ならではの宅地形成
- ・明るくたくましい雪国の生活を目指した町技「スキー」を子どもから大人まで楽しむ姿



(出典：倶知安町HP)

(4) 町民の愛着がつくる景観要素や資源

羊蹄山やニセコ連峰、自然環境に対する愛着が育まれています

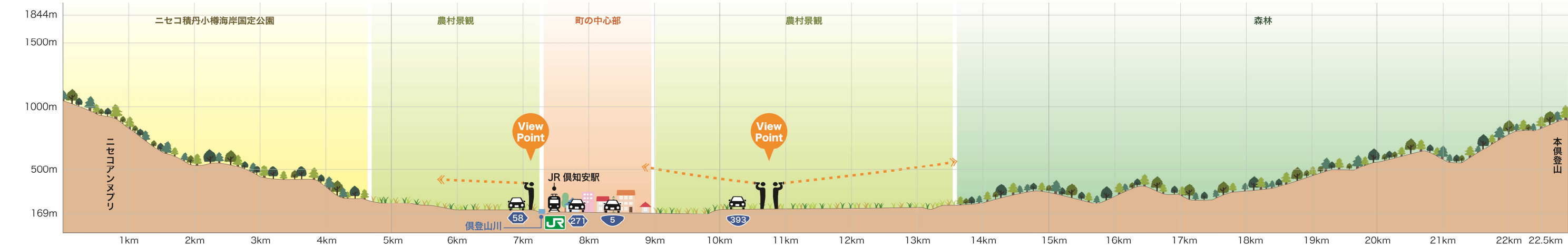
- ・羊蹄山やニセコ連峰の景色を見て季節を感じたり、日々の天候の変化を予測したり、心の中で当たり前のように山々を意識した生活
- ・おいしい水などの暮らし、スキーなどのアクティビティ、肥沃な農地から収穫される農産物、多くの観光客が訪れる状況、どれもが良質な自然環境の上に成り立っていることが町民の財産
- ・半年以上付き合う「雪」によって、他者への優しさ・思いやりを育む文化が自ずと醸成
- ・羊蹄太鼓は、先人の思いや羊蹄山、山に登る人々を表現し、開拓の精神や当時の暮らしを今に伝える文化の一つ

●小中学校の校歌から見る要素や資源(参考)

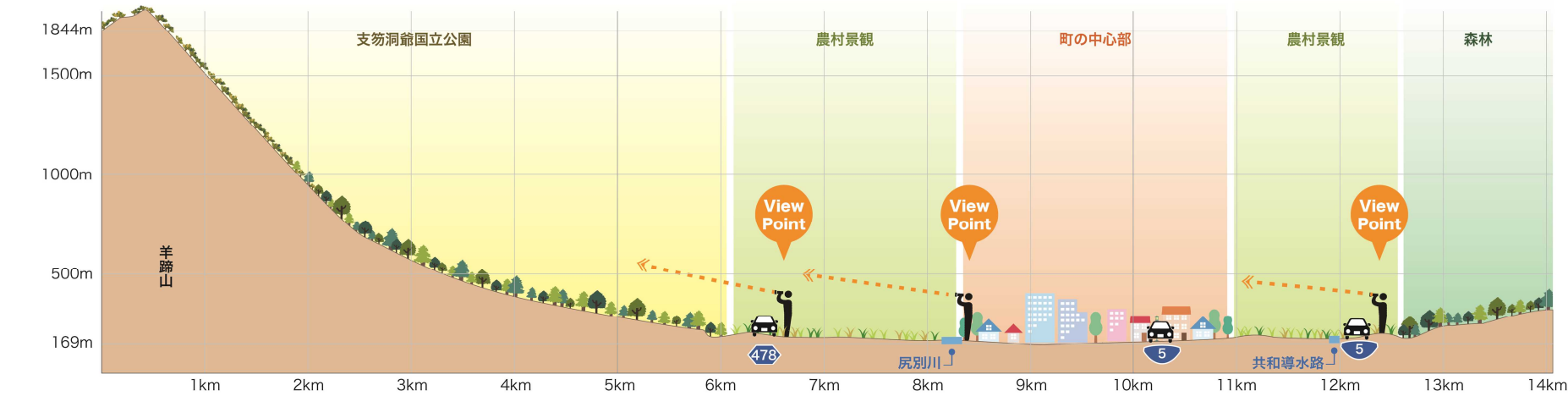
地形	羊蹄山(えぞ富士)／ニセコ(ニセコアン)／尻別川		
気候	雪／粉雪／吹雪	※調査小中学校： 倶知安中学校/倶知安小学校/ 倶知安北陽小学校/東小学校/ 西小学校/樺山分校	
自然	白樺／ポプラ		
営み	田／畑		

【倶知安町の断面図】

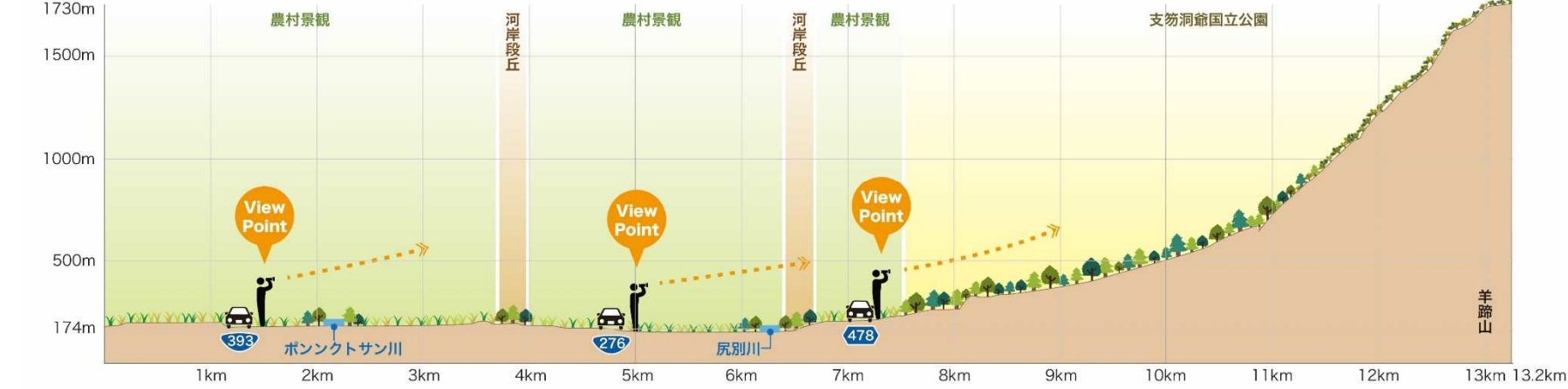
●ニセコアンヌプリ市街地ー本倶登山断面



●羊蹄山ー市街地断面



●羊蹄山ー農業地域断面



●ニセコアンヌプリ羊蹄山断面

